

おお大勝利

平成 28 年度山東サッカー一部報第 6 号 (5 月 31 日)

サッカー部保護者の皆様、OB・OGの皆様、日頃より本校サッカー部の活動にご理解とご協力を賜りまして、感謝申し上げます。

県総体第一ラウンド突破！

5 月 28 日 (土) 29 日 (日) いよいよ県総体が始まりました。この週を第一ラウンドとし、翌週の 6 月 3 日 (金) ~5 日 (日) の第二ラウンドですべての勝敗が決する。**5 回勝てば (シード校は 4 回勝てば) 優勝できる**。簡単なようでなかなか達成できない IH 出場の目標。山東は一回戦を県リーグを同じくする米沢工業と戦う。正直、5 月 18 日高体連サッカー専門部理事会の厳正なる抽選の結果米沢工業との対戦が決まった時、二つの思いがよぎりました。**一つは「縁あるな〜」**。二つ目は**「県リーグで当たっておいで良かった〜」**。今回は今野が赴任して 11 度目の県総体となるが、**米沢工業との初戦での対決はこれで 3 度目**。1 度目はタダケンの代 (山東第 62 回卒)、2 度目はヨシタカの代 (第 64 回卒) だった¹。1 度目は鶴岡中央 G での試合で勝ったが、2 度目は米沢工業 G で敗れている。あの敗戦は相当応えた……。この因縁を避ける (避けたくなる) ようでは、勝負の前に縁起が悪い。「よしっ、やったるぜ (ヨシタカの代の痛恨の初戦敗退の雪辱を果たす) !」と気合が入りました。そして、今期の Y2B で米工とは 4 対 4 で引き分けている。しかもその試合、スコア 1 対 4 になってから終盤怒涛の 3 ゴールでようやく引き分けたが、**競り合い・走力・スピードいずれも負けていた**²。ヘディングが強くボールを前へ前へ運ぶ所なんかは日大山形を彷彿とさせる。リーグ戦で米工の強さを実感していただけに、県総体ではそれを踏まえて心の準備等ができる。すなわち、いきなりあの勢を感じたら、面くらい、建て直す前に終了のホイッスルを聞くことになるかもしれない。ヨシタカの代での敗戦はそんな感じだった。そうならず、**経験者として県総体に臨めるのは、とても安心できる材料**。県リーグ米工戦後の部報第 4 号にて『**「競り合いで逃げない米工さんと県総体前に当たり経験させてもらって本当に良かった」**』と本気で思いました』と書きましたが、まさかその当の米工と当たるとは！

ということで、当然二回戦以降のことを考えたり情報収集することなく、米工戦にただ集中しました³。5 月 28 日午前、**学校祭実行委員長にして雑学王マツキ**を主将として立て、開会式・監督主将会議に臨んだ後、13:30 いよいよキックオフ。部員の応援の数では負けるが、**米工に負けない数の保護者の方々**が応援にいらっしゃる。**清野総監督、後藤報道局長、齋藤 GK コーチ**はいつもの通りお見えになり、そしてこの試合に**岸山東サッカー部後援会会長**も足を運んで下さる。**志田トレーナー**も駆けつけて下さった。学校からは**田村教頭先生、大山応援団顧問**そして**応援団チアの女子生徒**がいらっしゃり、応援して下さい。多くの方から応援される選手は本当に幸せだ。場所は、最近戦い慣れた感のある米工 G。

試合が開始されると、リーグ戦の戦いと同様に、競り合いに負け、ボールを縦に運ばれ、押

¹ 3 年ユートの代が卒業すると、第 67 回卒となります。

² 県リーグは 90 分のゲームでしたが、県総体のように 70 分だったら、そのままスコアは 1 対 4 でした。

³ 選手にはそう伝えながら、スタッフが情報収集しておき、初戦以降に備えるのは常套手段でしょうが、今年はそのようなこともしませんでした。

し込まれる。予想はついていたものの、山東の課題が何ら変わらないことに失望を禁じ得ない。**競り合わずに米工にフリーでヘディングされる、誰もヘディングせずにボールが落ちるシーンが多数。**山東は2名のボランチ、2名のCBがそれぞれ横に並び、同じ高さで立っており、縦の関係になってどちらがボールに行くのか（どちらがカバーに回るのか）が判然としない。そして、**どんどん縦にボールを蹴られるものだから、DFラインをなかなか上げられずに間延びしている。**その隙間に、FWが入り、競り合いに勝って流れたボールを収め攻撃につなげてくる。やはり米工、いやらしい。対する山東、地上戦で勝機をつかみに行くしかない。前半、押され気味の展開の中、左サイドでボールを持ち**2年左MFベジータ**（以下ベジ）が切り返しから中へグラウンダー（ゴロ）のパスを送ると、ボールは**2年ボランチカイト**へ渡る。そのボール、カイトは走り込んだ勢いのままボールを前へトラップすると、ファーサイドのサイドネット付近にきれいに吸い込まれる低空のシュートを放つ。**苦しいこの試合で山東の先制！**これは大きい。この試合、このスコアのまま終わる気がしない（失点しそうな）ものの、**劣勢の時の得点は再び勇氣と集中力をもたらしてくれる。**そしてハーフタイム。後半も山東はなかなか流れをつかめないものの、後半は米工も少しずつ疲れてきた印象あり。山東の攻撃が形となってきたというより、山東の守備が安定してきた。時折、相手の好選手ボランチ⑩が良い形でボールを持つとヒヤッとさせられるものの、それ以外は比較的安心して試合を観ることができた。結局後半は双方攻撃が雑で、決定機を作ることができず。そのまま1対0でタイムアップ。米工の応援に回った部員が試合前から大応援で盛り上げており、正直その隣で山東の応援が成り立つのか心配しましたが、**3年マツキ応援団長のリード下、チアのキーの高い声がビシビシと反対側のベンチまで聞こえるほど炸裂しており、とても心強かったです！！**

翌日は2回戦シード校の鶴岡東戦。鶴東は今期Y1で全敗。かなり不本意なシーズン序盤を過ごしている。とはいえ、昨年はリーグ戦7位⁴と不本意な成績だったものの選手権では準決勝まで進んでいる。要は**リーグ戦での悔しい思いをトーナメントにぶつけることのできるチーム**と見た。今期鶴東の試合を観たこともなくどんなチームか全くわかりませんでした。選手がピッチ内で観察し感じて対応してくれることに賭けるしかない⁵。場所は同じく米工G。**もはやホームのような気もして来ました。**初戦に応援に来て下さり紹介済みの方々の紹介は割愛しつつも、所用で1回戦いらっしやれず必ず勝つように後藤報道局長づてにメッセージを下さった**工藤先輩**（山東で清野総監督と同期）が2回戦はお越し下さった。

相手の鶴東には、**ナオヤの代（山東58回卒）**の県総体初戦（2回戦）にて櫛引Gで痛恨の敗戦を喫したことが思い出される。**あの代のチーム、面子的には私が受け持った学年の中で恐らくNo.1。**後輩にもカッシーやタイラ、シンペーがおり、新入生ではキジマもいた。**今の山東から比べれば、綺羅星の如き人材がいた。**あのときは「スキルの差をスコアの差にしないサッカー」などと口にすることもなかった。県新人も2位で、1位の羽黒との差はほとんどなかった。**優勝できる人材を抱えながら、指導力不足があり、結果を残すことができなかった。**山東で県大会常連校での指導経験を積んだ後にあのメンバーと出会えていたらもっと違うチームにすることができた、と今でも当時の自分の力不足を悔やむ。まあ、そんな因縁も10年一昔。試合前に感じることはなかった（パソコン前で思い出されるだけで）。

いや、そんなことより、試合前アップ中、**2年GKハレル**が3年「鋼の股間」ワタコーさんの持病の箇所と同様**股関節が痛くゴールキック蹴れない、**と言うから驚き慌てた。確かに、ハ

⁴ 本来であればY2へ降格ですが、Y1で1位の日大山形が宮城県リーグ1部1位との昇格決定戦に勝ちプリンスリーグ東北へ昇格したために、辛くも残留しました。

⁵ こういうことがあると、シード校として前日に（1回戦を）観察できるのは、有利だと感じます。

レルのキックは相手に付け込まれこそすれ山東の持ち味でも何でもなかったが、GK 以外の人間がゴールキックを蹴るとなると、オフサイドラインがキッカーまで下がってしまうので、ゴールキックの跳ね返りがそのままゴール前まで来て、そして繋がってしまいかねない。それはさすがにマズイ。かと言って無理に蹴らせても、飛ばない・怪我悪化と良いことがない。「キーパーまでボール運ばせなきゃいいんだ」などと齋藤 GK コーチに強がってみたものの、誰も本気と思わない。ハレルにいつ故障したか訊くと、1 回戦で最初にゴールキックを蹴ったとき、誤って地面を蹴り痛めたとのこと。あのね、ハレル君、地球と勝負して勝てる訳ないんですよ。体のあらゆる部分が固く、そもそも故障しやすい欠点が、大事な場面で出てしまった。仕方ない、DF が蹴るということで腹を括るしかない。

さあ、11:00 キックオフ。**試合の入り、山東いつになく良い**。懸念されたゴールキックの一本目、ハレル、DF 陣に（俺が蹴るから受けに来ず）上がれと指示している。「おいおい、バカだなハレル、大丈夫か」と気を揉んでいると、これまたいつになく素晴らしいボールを蹴りやがる。「いつもよりいいんじゃないか」と齋藤さんもうれしそう。「変な体の力みがなく、良いボールになったのかもしれないね」と言ったものの、心配は心配⁶。ともかく、そんな心配はよそに、**うまく地上戦を戦っている山東**。1 回戦からメンバーを変えて、サンペーとユートという Y2B で得点量産した二人の 3 年生を FW で先発させたが、その判断は当たり。山東の攻撃に確実性を与えている。サンペーはボールが収まるので、できればボランチで起用したいが、どうせ現在の山東にとって GK と DF の間、DF と MF の間で丁寧にビルドアップするなんていうのは理想論であり、現実にはちょっと寄せられただけで DF 陣がボカスカ蹴ってしまってボランチの頭をボールが行き来する。**だったら、一番ボールの収まる選手を FW で起用し、高い位置でボールを収めてから FW と MF の連携で崩す、この方が現実的ではないか、と 1 回戦後しみじみ思った**。その思い、間違っていたと感ぜられる前半。山東の良い流れから、**2 年ベジ**が抜け出し、確か左足ボレーで確実に逆サイドネットを揺らし、先制に成功。そして先制から暫く後に、FW の動きに引きずられ空いた真中のスペースにベジが逃さず入り込み、**2 年 MF アダチ**がそこに的確にボールを供給し、ベジ GK と 1 対 1 に。落ち着いて決め、**ベジ 2 得点。山東 2 対 0**とする。これは大きな追加点。**なかなか得点できない選手のイメージのあったベジですが、この大舞台で化けた**（元に戻らないでもらいたい）。**昨日今日と、2 年生が 3 年生を助ける**。その後、「ヘディングしない⇒バウンドするボールを待つ⇒相手は誰も来てないと思ってトラップすらせずボールを後ろに流す⇒相手がブラインドから走ってきていた⇒ボールを搔っ攫われシュート⇒失点」という DF の致命的ミスで、折角の良い流れが台無し。**2 対 1**。この括弧のうち、ボールを後ろに流すのもヘボですが、それよりもチーム全体としては、**空中のボールを誰も競らない、ヘディングしない、平気でボールを地面に落とすという山東に漂う文化・習性そのものが最も悪い**。米工戦でその欠点を痛いほど突かれているというのに、まだ身にしみていないということか。しかし、ここで漂った悪〜い雰囲気、相手ミスをしっかり咎めた**サンペー**の得点により払拭。**3 対 1**とし、ハーフタイム。

後半は終始山東優勢でしたが、たびたびあった決定機を自ら逃したり、鶴東の的確なスライディングによりチャンスをもものにできず。もちろん山東のゴールサイドに押し込まれることはありましたが、決定機を許さず手厚く守り、逆に前がかかる鶴東の裏をたびたび付き、決定機を何度も作りました。しかし、得点できず。**特にセンターリングが全く合わなかったのが山東としては痛かった**。**3 年ユータロー**は惜しいチャンスをもものにできず、**7 ミキ**は出場時間が短す

⁶ ハーフタイム、なぜ 1 本目打ち合わせと違って自分で蹴ったのか訊くと、「最初っから DF に蹴ってもらくと、舐められると思って」とのハレルの返答。むむっ、やりやがる！！

ぎたか。そしてそのままタイムアップ。

Y1 所属のシード校を破り、これで山東ベスト 8 進出。正直、レベルの高い関東のチームには「県で八つに入った」などと遠征先で恥ずかしくて言えませんが⁷、これは山形内の争いですからね。**鶴東戦は甘いところもありましたが、米工戦と比べ、内容面でも評価できる点が多く、冬場に磨いてきたスキルが発揮された試合だったとまとめて良い。**鶴東は、去年の山東と同様にリーグ戦で勝てない試合が続き、選手にも、采配にも、迷いがあったのではないのでしょうか。やはり、どういう形で県総体を迎えるか、が大切だと実感させられた試合でした。

翌 29 日、出勤すると、職員朝会で発表されたり、多くの先生から「スゴイね」と声をかけられました。正直こちらは戸惑うばかり。だって、目標はベスト 1 なのですからベスト 8 で喜んでいられない、と格好良く言ってもいいですが、それ以上に、昨年と同じところに来てだけなんですから。**昨年はまったく声をかけられなかったが、今年声をかけられるのはなぜなんだろう。**戸惑うばかりです。多くの種目で強豪の私立高校を破った今年と、その私立と同じ地区の進学校を破った昨年との違いと言えましようが、サッカー界の序列はまた別ですからね⁸。まあ、ベスト 8 でこんなに喜んでもらえるというのは、いかに近年の山東の成績が低迷しているかを表すのでしょうか、**皆さんの応援を力に換えればいいのだ、と前向きに考えることにしましょう⁹。**

さて、6 月 3 日（金）から県総体主会期が始まります。**山東の準々決勝の相手は、優勝候補筆頭の山形中央**です。昨年も優勝候補の筆頭日大山形と 4 つ決めの山で当たり、粉碎された。2 年連続で県新人優勝チームとの対戦。その不運を嘆くこともできますが、一応山東は 1 位を目標にしてきたチームですからね。対戦相手で一喜一憂するのはおかしい。こちらは失うものは何もないのです。イングランドのプレミアリーグで日本の岡崎の所属するレスターが今期優勝しましたが、シーズン前時点での優勝の倍率は 5000 倍だったそうです。**山東の優勝、鼻屑目に見ても大変大変厳しいですが、倍率は 5000 倍よりもいい（5000 倍を下回る）**と思います。要は、誰も山東の優勝など予想してないでしょうが、もしかしたらこういう年に優勝できるのかもしれない（と思いたい）。もちろん実力的には厳しいでしょうが、何かが噛み合えば。ともかく、金曜日の試合に一戦必勝の精神で臨みます。応援よろしくお願いします！

6 月 3 日（金）県総体準々決勝 VS 山形中央 13：30～@米沢 SF 東

それに勝つと

6 月 4 日（土）同準決勝 VS 米沢中央と山形城北の勝者 13：30～ @同上

それに勝つと

6 月 5 日（日）同決勝 VS 日大山形 or 山形商業 or 東海大山形 or 羽黒 11：00～@同上

⁷ 関東の話などを総合して判断すると、山形のベスト 8 は関東のベスト 64 くらいの価値だと思います（遠征先で山東と接戦となったチームに、試合後に「県でいくつまで行きましたか？」などと訊くと「64 です」などの応えが多い）。

⁸ 地区大会でも、鶴東より鶴南の方が成績上です（今年もそうですし何年かの平均をとっても）。

⁹ **山東サッカー部時代の恩師の正浩先生**からも激励のメール頂戴しました（私の現役時代の部長先生、監督は故佐竹先生、他の顧問は山東後に長らく山西サッカー部の顧問をされた大沼先生と長らく山形中央の顧問をされた木村先生でした⇒べにばな国体前とは言え 4 人体制でしたね！）。